

**アドイン照合プログラム
for アシスタック Pro BHT-800
取扱説明書 第4版**



2013年 7月 1日
コンピュータ・アシスト株式会社



目次

1 照合プログラムの動作設定	1
2 データ区分	2
3 照合条件	5
3-1 照合モード.....	5
1) バーコード照合	5
2) 部分データ照合	7
3) マスター照合	12
3-2 動作モード.....	14
3-3 マスターファイル.....	15
3-4 読取バーコードのユーザー定義.....	16
4 データ保存	26
5 設定更新	28
6 マスターファイル作成/送信	29
7 ハンディターミナルプログラム	31
7-1 アドイン照合プログラムダウンロード.....	31
7-2 業務設更新.....	32
7-3 アドイン照合プログラム実行.....	33
7-4 1対1照合 ～ 1対5照合.....	34
7-5 照合1対N照合.....	35
7-6 入力/データ処理エラー表示.....	36
7-7 照合データ送信.....	37
7-8 マスターファイルダウンロード.....	38

1 照合プログラムの動作設定

業務設定において、動作モードに「アドインプログラム」を選択し、プログラム名に「BACMP800.PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

「アドインプログラム」を選択

業務設定(照合サンプル.bnf)

新規作成 開く 保存 送信データ一覧表示 業務設定送信 業務設定受信 開じる 終了

業務追加 業務削除 グループ項目追加 グループ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択

基本設定 動作設定

業務メニュー

照合サンプル

BHT-800画面

照合サンプル

設定する
アドイン業務プログラムの画面表示になります。

業務名 照合サンプル (半角15文字以内)

動作モード アドイン業務プログラム

プログラム名 BACMP800.PD4

アドインプログラム設定

「BACMP800.PD4」を入力

このボタンをクリックしてください

2 データ区分

担当者コードなどのデータ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして「データ区分を使用する」をチェックしてください。

ここをクリック

「データ区分」を使用

マスターファイルを使用して文字列を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」と「フィールド情報」を設定します。

書式：〈検索キー桁数〉,〈参照データ桁数〉
設定桁数範囲： 1 ～ 99

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 サプ' 表示)，日付(YYYY/MM/DD)，日付(YY/MM/DD)，日付(MM/DD)，時刻(HH:MM)から選択します。
データ表示	入力データの標準表示，横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 サプ' 表示)のデータ入力桁数を、最大，最小で制限します。
バーコード	「バーコード使用」をチェックして、「バーコード読取設定」ボタンをクリックすると設定画面を表示します。
文字列表示マスター	「文字列表示マスターファイルを使用する」をチェックして、表示用マスターファイルとフィールド情報を設定してください。 「マスターデータがない場合エラー」を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。

・データ区分におけるバーコード読取設定

担当者 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ なし ☐ あり ☐ STF ☐ なし ☐ あり

☒ NW7 ☐ なし ☐ あり ☐ Code39 ☐ なし ☐ あり

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN・UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット

☐ データチェックを使用する

データ選択 桁目から 桁

キャンセル 確定

「1桁目から10桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1桁目から10桁」がデータ区分のデータになります。

「9999桁目から10桁」と設定した場合は、「末尾から10桁」がデータ区分のデータになります。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	データ区分の場合は固定長になります。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。



○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
書籍コード	先頭97のJAN-13と先頭19のJAN-13の2段バーコード読取 読み取ったデータは、26桁のデータになります。 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
ITF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能
STF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能 (BHT-800Bのみ)
NW7	チェックデジット (モジュラス16) の設定可能
Code 39	チェックデジット (モジュラス43) の設定可能 数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
Code 93	数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字 (0~9), 英字 (A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクスパンデッド, エクスパンデッドスタック
QRコード	マイクロQR, QRモデル1, QRモデル2 (BHT-800Qのみ)
PDF417	マイクロPDF417, PDF417 (BHT-800Qのみ)
Data Matrix	正方形 Data Matrix, 長方形 Data Matrix (BHT-800Qのみ)
MaxiCode	BHT-800Qのみ
EAN・UPC Composite	共通商品コード, EAN-128, RSSのCOMPOSITEバーコード (BHT-800Qのみ)
ユーザー定義	2段バーコード, 3バーコード (BHT-800Qのみ) の読取設定など、ユーザー独自に読取設定 をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>, , <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。



3 照合条件

照合モード，動作モード，項目名，バーコード読取を設定します。

3-1 照合モード

バーコード照合，部分データ照合，マスター照合から選択します。

1) バーコード照合

照合元で読み込むバーコードと照合先で読み込むバーコードのデータを比較します。NW7のスタート/ストップキャラクタはデータに含みません。

バーコード照合を選択

1対1照合～1対5照合，1対N照合から選択

ここをクリック

マスターファイルを使用して文字列を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」と「フィールド情報」を設定します。

動作モードが1対1照合と1対N照合の場合、照合先1のみ表示します。

1対2照合の場合は照合先1～2、1対3照合の場合は照合先1～3、

1対4照合の場合は照合先1～4、1対5照合の場合は照合先1～5を表示します。



・バーコード照合における照合元／照合先のバーコード読取設定

照合元 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☒ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ STF

☐ NW7 ☐ Code39

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN-UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置

チェックデータ

チェック方法

☐ 指定文字を削除する

キャンセル 確定

チェックデータ位置に「1桁目から」、チェックデータに「49」、チェック方法に「一致しなかったらエラー」と設定した場合は、バーコードデータの先頭が「49」でなければ「データチェックエラー」を表示します。チェックデータ位置に「9999」を設定した場合は、末尾からチェックします。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
ITF, STF, NW7, Code39 のチェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコード照合の場合は固定長になります。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
指定文字を削除	指定した半角文字を削除して照合データにします。照合元データ「123-45」と照合先データ「12345」を照合する場合に、削除文字に「-」を設定します。



2) 部分データ照合

照合元で設定する照合元データと、照合先で設定する照合先データを比較します。

① 固定長の場合

照合元バーコード： 3 4 5 6 7 1 0 0 1 0 (照合データに 1 ~ 5 桁 を設定)

比較する

照合先バーコード： 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 (照合先データに 3 ~ 7 桁 を設定)

② カンマ区切りの場合

照合元バーコード： 1 2 3 4 5 , 6 7 8 9 , 0 1 2 3 (照合データに 1 番目のデータを設定)

比較する

照合先バーコード： 1 2 3 4 , 1 2 3 4 5 , 6 7 8 9 (照合先データに 2 番目のデータを設定)

部分データ照合を選択

1 対 1 照合 ~ 1 対 5 照合, 1 対 N 照合から選択

ここをクリック

照合プログラム設定(BHT-800)

照合モード: 部分データ照合 | 動作モード: 1対5照合

照合元
項目名: 照合元 | バーコード読取設定

照合先1
項目名: 照合先 1 | バーコード読取設定

照合先2
項目名: 照合先 2 | バーコード読取設定

照合先3
項目名: 照合先 3 | バーコード読取設定

照合先4
項目名: 照合先 4 | バーコード読取設定

照合先5
項目名: 照合先 5 | バーコード読取設定

① 部分データ照合における照合元のバーコード読取設定

・ 固定長フォーマットの場合

照合元 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ 書籍コード ☐ STF ☐ 雑誌コード

☐ NW7 ☐ Code39 ☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☒ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN-UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデータをデータ列に含めない

データフォーマット

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置

チェックデータ

チェック方法

照合元データ設定

照合データ	バーコードデータ
照合データ1	1 桁目から 13 桁
照合データ2	14 桁目から 13 桁
照合データ3	27 桁目から 13 桁
照合データ4	40 桁目から 13 桁
照合データ5	53 桁目から 13 桁

☐ 指定文字を削除する

キャンセル 確定

固定長を選択

固定長の場合のデータチェック設定

チェックデータ位置に「1桁目から」、チェックデータに「123」、チェック方法に「一致しなかったらエラー」と設定した場合は、バーコードデータの先頭が「123」でなければ「データチェックエラー」を表示し再入力になります。チェックデータ位置に「9999」を設定した場合は、末尾からチェックします。

動作モードが1対1照合と1対N照合の場合、照合データ1のみ表示します。

1対2照合の場合は照合データ1～2、
1対3照合の場合は照合データ1～3、
1対4照合の場合は照合データ1～4、
1対5照合の場合は照合データ1～5
を表示します。

固定長の場合の照合データ設定

「4桁目から6桁」と設定した場合は次のようになります。

4桁目

バーコードコード： 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

この場合の照合データは、「456789」になり、照合先において設定する照合先データと比較します。

「9999桁目から6桁」と設定した場合は、「末尾から6桁」が照合元データになります。



・ カンマ／スペース／タブ記号／CR記号区切りフォーマットの場合

照合元 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ なし ☐ あり ☐ STF ☐ なし ☐ あり

☐ NW7 ☐ なし ☐ あり ☐ Code39 ☐ なし ☐ あり

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☒ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN-UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェック桁数をデータ列に含めない

データフォーマット

☒ データチェックを使用する

データNo チェックデータ位置

チェックデータ

チェック方法

照合元データ設定

照合データ	データNo
照合データ1	1
照合データ2	2
照合データ3	3
照合データ4	4
照合データ5	5

☐ 指定文字を削除する

キャンセル 確定

カンマ区切りの場合のバーコードデータとデータNoの関係

データNo1 データNo2 データNo3
バーコードデータ: , , , . . .

カンマ区切り/スペース区切り/タブ記号区切り/CR記号区切りを選択

カンマ区切りの場合のデータチェック設定

「データNo1」, チェックデータ位置に「1桁目から」, チェックデータに「123」, チェック方法に「一致しなかったらエラー」と設定した場合は、バーコードデータの先頭が「123」でなければ「データチェックエラー」を表示します。
チェックデータ位置に「9999」を設定した場合は、末尾からチェックします。

動作モードが1対1照合と1対N照合の場合、照合データ1のみ表示します。

1対2照合の場合は照合データ1～2、
1対3照合の場合は照合データ1～3、
1対4照合の場合は照合データ1～4、
1対5照合の場合は照合データ1～5
を表示します。

カンマ区切りの場合の照合データ設定

「データNo2」と設定した場合は次のようになります。

データNo1 データNo2 データNo3
バーコードコード: , ,

この場合の照合データは、「456789」になり、照合先において設定する照合先データと比較します。



② 部分データ照合における照合先のバーコード読取設定

・ 固定長フォーマットの場合

照合先 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☒ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ 書籍コード ☐ STF

☐ NW7 ☐ Code39

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN・UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータ列に含めない

データフォーマット **固定長**

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置 桁目から

チェックデータ

チェック方法

照合先データ設定

照合先データ 桁目から 桁

☐ 指定文字を削除する

キャンセル 確定

固定長を選択

固定長の場合の照合先データ設定

「4桁目から6桁」と設定した場合は次のようになります。

4桁目

バーコードコード： 1 2 3 **4 5 6 7 8 9** 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

← 6桁 →

この場合の照合先データは、「4 5 6 7 8 9」になり、照合元において設定した照合データと比較します。

「9 9 9 9桁目から6桁」と設定した場合は、「末尾から6桁」が照合先データになります。

照合先データ	対応する照合データ
照合先1の照合先データ	照合データ1
照合先2の照合先データ	照合データ2
照合先3の照合先データ	照合データ3
照合先4の照合先データ	照合データ4
照合先5の照合先データ	照合データ5

・ カンマ／スペース／タブ記号／CR記号区切りフォーマットの場合

照合先 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ なし ☒ あり ☐ STF ☐ なし ☒ あり

☐ NW7 ☐ なし ☒ あり ☐ Code39 ☐ なし ☒ あり

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☒ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN-UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 100 桁 最小 1 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデータをデータ列に含めない

データフォーマット カンマ区切り

☒ データチェックを使用する

データNo 1 チェックデータ位置 1 桁目から

チェックデータ 49

チェック方法 一致しなかったら入力エラー

照合先データ設定

照合先データ バーコードデータ

データNo 1

☐ 指定文字を削除する

キャンセル 確定

カンマ区切り/スペース区切り/タブ記号区切り/CR記号区切りを選択

カンマ区切りの場合の照合先データ設定

「データ No. 2」と設定した場合は次のようになります。

データ No1 データ No2 データ No3

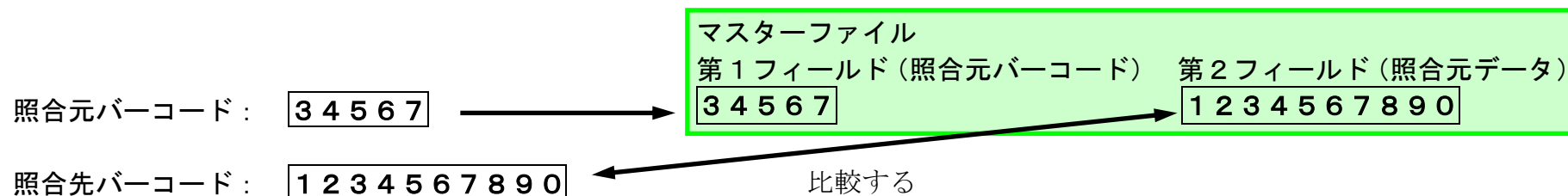
バーコードコード: 1 2 3, 4 5 6 7 8 9, 0 1 2 3 4 5 6 7

この場合の照合先データは、「4 5 6 7 8 9」になり、照合元において設定した照合データと比較します。

照合先データ	対応する照合データ
照合先 1 の照合先データ	照合データ 1
照合先 2 の照合先データ	照合データ 2
照合先 3 の照合先データ	照合データ 3
照合先 4 の照合先データ	照合データ 4
照合先 5 の照合先データ	照合データ 5

3) マスター照合

照合元バーコードと照合先バーコードのマスターファイルを作成し、読み込んだ照合元バーコードと一致するレコードの照合元データと、読み込んだ照合先バーコードを比較します。NW7のスタート/ストップキャラクタはデータに含みません。



The screenshot shows the '照合サンプル 照合プログラム設定(BHT-800)' dialog box. On the left, a sidebar contains buttons: 'データ区分' (Data Division), '照合条件' (Match Condition), 'データ保存' (Data Save), 'キャンセル' (Cancel), and '更新' (Update). An arrow points to '照合条件' with the text 'ここをクリック' (Click here). The main area has two dropdown menus at the top: '照合モード' (Match Mode) set to 'マスター照合' (Master Match) and '動作モード' (Operation Mode) set to '1対5照合' (1-to-5 Match). Below these are sections for '照合元' (Match Source) and '照合先' (Match Destination). The '照合元' section has a yellow background and includes a '照合マスターファイル' (Match Master File) field and a 'フィールド情報' (Field Information) button. An arrow points to the 'フィールド情報' button with the text 'マスター照合に使用する「マスターファイル」と「フィールド情報」を設定します。' (Set the 'Master File' and 'Field Information' used for Master Match). The '照合先' section contains five rows, each with a '項目名' (Item Name) field and a 'バーコード読取設定' (Barcode Read Setting) button. Arrows from the text above point to the 'マスター照合' dropdown and the '1対5照合' dropdown.

フィールド情報の書式：〈検索キー桁数〉, 〈参照データ桁数〉
設定桁数範囲： 1 ～ 99



・マスター照合におけるの照合元／照合先バーコード読取設定

照合先1 バーコード読取設定 (BHT-800)

読取バーコード

☒ JAN/EAN/UPC ☐ 書籍コード ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ なし ☒ あり ☐ STF ☐ なし ☒ あり

☐ NW7 ☐ なし ☒ あり ☐ Code39 ☐ なし ☒ あり

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ QRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix ☐ MaxiCode

☐ EAN・UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置

チェックデータ

チェック方法

☐ 指定文字を削除する

キャンセル 確定

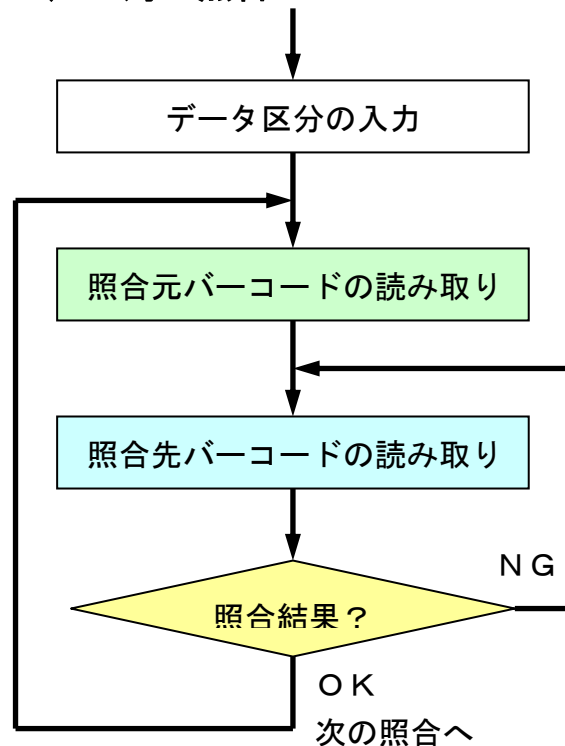
チェックデータ位置に「1桁目から」、チェックデータに「49」、チェック方法に「一致しなかったらエラー」と設定した場合は、バーコードデータの先頭が「49」でなければ「データチェックエラー」を表示します。チェックデータ位置に「9999」を設定した場合は、末尾からチェックします。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード 桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
ITF, STF, NW7, Code39 のチェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	マスター照合の場合は固定長になります。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
指定文字を削除	指定した半角文字を削除して照合データにします。照合元データ「123-45」と照合先データ「12345」を照合する場合に、削除文字に「-」を設定します。

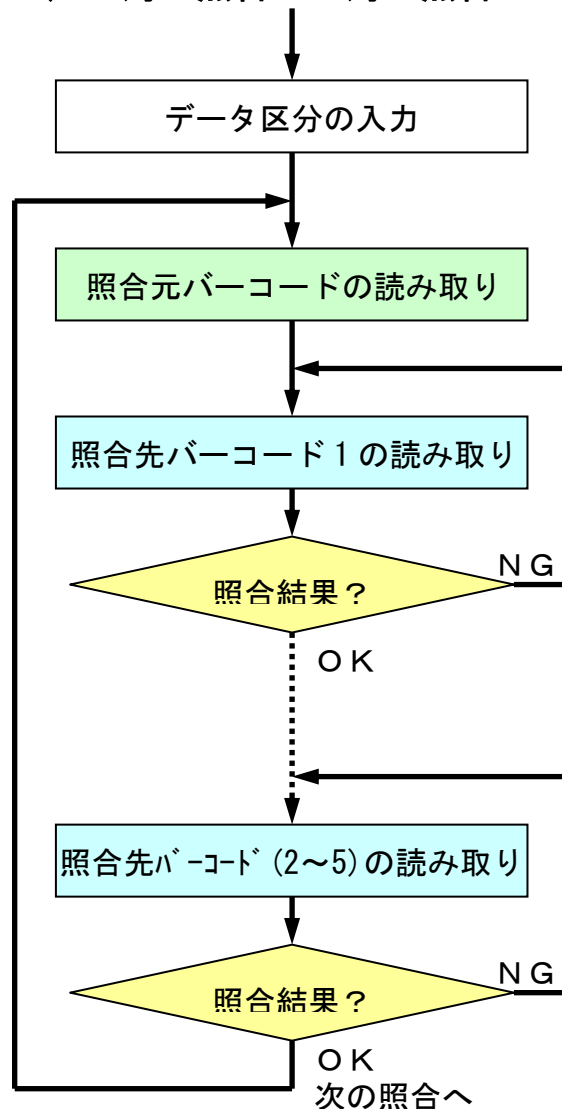
3-2 動作モード

1対1照合, 1対2照合, 1対3照合, 1対4照合, 1対5照合, 1対N照合から選択します。

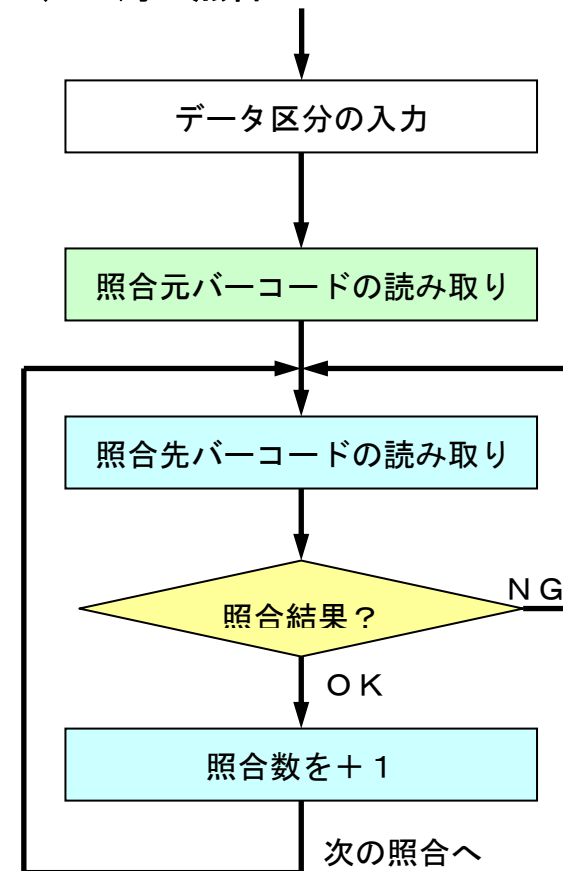
1) 1対1照合



2) 1対2照合～1対5照合



3) 1対N照合



注) 「データ区分入力」はデータ区分を使用する場合のみです。

3-3 マスターファイル

ファイル名は、HT内のファイル名と重複しないように、下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字1～8文字＞、＜拡張子（大文字半角英数字1～3文字）＞

（拡張子にPD3、PD4、EX3、FN3、FLD、EXE、BAT、DLL、JPG、TMPを使用しないでください。）

フィールド情報は、下記の書式で入力してください。

＜検索キー桁数＞、＜参照データ桁数＞ 設定桁数範囲：1～99

マスターファイルは、設定したファイル名で下記の2つのフィールドから成る固定長のテキストファイルを作成します、

1) データ]区分の文字列表示マスターファイル

検索キー	参照データ
入力データ	表示文字列

2) バーコード照合の文字列表示マスターファイル

検索キー	参照データ
照合元バーコード	表示文字列

3) 照合マスターファイル

検索キー	参照データ
照合元バーコード	照合先バーコード

アシストパックマネージャーの「マスターファイル作成／編集／転送」を使用してマスターファイルを作成して、BHT-800に転送してください。（「6. マスターファイル作成／送信」を参照）

3-4 読取バーコードのユーザー定義

読取バーコードのユーザー定義は、ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。

＜第1読み取りコード＞, ＜第2読み取りコード＞, , ＜第16読み取りコード＞

■■■■■■■■■■ 【 読取バーコードのユーザ定義設定 】 ■■■■■■

BHT-BASICプログラミングマニュアル (BHT-800シリーズ用) より

■ 読み取りコード (BHT-800B)

読み取りコードには、共通商品コード（JAN, EAN, UPC）、インターリーブド2of5（ITF）、Codabar（NW7）、Code39、Code93、Code128、スタンダード2of5（STF）、RSS があります。

☐ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式： A [: [コード] [1文字目 [2文字目]] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド 2 of 5 (I T F)

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。



□ C o d a b a r (NW7)

書式： N [: [最小桁数 [-最大桁数]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ C o d e 3 9

書式： M [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ C o d e 9 3

書式： L [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



□ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式: K[: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ スタンダード2 of 5 (STF)

書式: H[: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD] [スタート ストップ]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

□ GS1 DataBar (RSS)

書式: R



■ 読み取りコード (BHT-800Q)

読み取りコードには、2DコードのQRコード、PDF417、MaxiCode、DataMatrix、EAN・UCC Compositeおよび共通商品コード(JAN, EAN, UPC)、インターリーブド2of5(ITSF)、Codabar(NW7)、Code39、Code93、Code128、RSSがあります。

□ QRコード

書式: Q[:[シンボル種別][最小コードバージョン][-最大コードバージョン][連結モード]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロQR
M	QRモデル1
L	QRモデル2

シンボル種別を省略すると、マイクロQR、QRモデル1、QRモデル2を読むことができます。

最小コードバージョンと最大コードバージョンは、読み取り可能なQRコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
1～4	S
1～22	M
1～40	L

最小コードバージョン≤最大コードバージョンでなければなりません。

最小コードバージョンと最大コードバージョンの両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでのQRコードを読み取ることができます。最大コードバージョンだけを省略すると、最小コードバージョンで指定したバージョンのQRコードしか読み取れません。

連結モードにEを指定すると、最大16分割されたQRコードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割されたQRコードシンボルの読み取りは禁止となります。



連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動はは次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが2回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが1回鳴動し、最後のコードを読み取ると、3回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。

連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行なっても読み取りません。

次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

- ・ 連結コードでないQRコードを読み取った場合
- ・ 別の連結コードを読み取った場合
- ・ 読み取り口を3秒以上コードから外した場合
- ・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、QRコード以外の読み取りは禁止となります。

□ P D F 4 1 7

書式： Y [: [シンボル種別]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロPDF417
M	PDF417

シンボル種別を省略すると、マイクロPDF417、PDF417を読むことができます。

□ M a x i C o d e

書式： X



□ Data Matrix

書式： Z [: [シンボル種別 [最小コード番号] [- 最大コード番号]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形 Data Matrix
R	長方形 Data Matrix

シンボル種別を省略すると、正方形 Data Matrix，長方形 Data Matrix を読むことができます。

最小コード番号と最大コード番号は、読み取り可能な Data Matrix の最小と最大のコード番号で、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コード番号	シンボル種別
1 ~ 2 4	S
1 ~ 6	R

最小コード番号 ≤ 最大コード番号 でなければなりません。

最小コード番号と最大コード番号の両方を省略すると、各シンボル種別の最大コード番号までの Data Matrix を読み取ることができます。最大コード番号だけを省略すると、最小コード番号で指定したコード番号の Data Matrix しか読み取れません。コード番号とセル数の対応は以下の通りです。

正方形 Data Matrix

コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL
1	10 X 10	7	22 X 22	1 3	44 X 44	1 9	88 X 88
2	12 X 12	8	24 X 24	1 4	48 X 48	2 0	96 X 96
3	14 X 14	9	26 X 26	1 5	52 X 62	2 1	104 X 104
4	16 X 16	1 0	32 X 32	1 6	64 X 64	2 2	120 X 120
5	18 X 18	1 1	36 X 36	1 7	75 X 72	2 3	132 X 132
6	20 X 20	1 2	40 X 40	1 8	80 X 80	2 4	144 X 144



長方形DataMatrix

コード 番号	ROW X COL	コード 番号	ROW X COL
1	8 X 18	4	12 X 36
2	8 X 32	5	16 X 36
3	12 X 26	6	16 X 48

□ EAN・UCC Composite

書式： V

共通商品コード、EAN-128、RSSのCompositeバーコードを読み取ることができます。

□ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式： A [:[コード] [1文字目 [2文字目]] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド2 of 5 (ITF)

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁



までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDに**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

☐ **C o d a b a r (NW7)**

書式: N[:**最小桁数**[-**最大桁数**]]**[スタート ストップ]****[CD]**

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートと**ストップ**は、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDに**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

☐ **C o d e 3 9**

書式: M[:**最小桁数**[-**最大桁数**]]**[CD]**

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDに**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

☐ **C o d e 9 3**

書式: L[:**最小桁数**[-**最大桁数**]]



最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ **GS1-128/EAN-128/Code128**

書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ **GS1 DataBar (RSS)**

書式： R

□ **多段コード読み取り**

書式： &

多段コードを読み取るには、&を指定し、その後に続けて読み取るコードを指定します。段数は3段まで設定できます。

&, <1段目読み取りコード>, <2段目読み取りコード>, <3段目読み取りコード>と設定してください。

多段コードとして指定できる読み取りコードは、共通商品コード, インターリーブド of 25 (ITF), Codabar (NW7), Code39, Code93, Code128です。

(1) 多段コード指定は1段で読む読み取りコードの指定とは独立しています。

例：共通商品コードEAN-8とEAN-13の2段の場合

A:B,A:A

例：共通商品コードEAN-8を1段とCode39を2段の場合

A:B,&M,M

2段コードは最後に指定します。



4 データ保存

照合結果を保存して送信する場合は、[照合結果を保存する] をチェックしてください。

照合サンプル 照合プログラム設定(BHT-800)

ここをクリック →

データ区分
照合条件
データ保存
キャンセル
更新

☒ 照合結果を保存する

保存ファイル SHOUYOU.TXT 保存フィールド数 7
保存条件 照合OK タイムスタンプ なし

フィールド	データ区分	桁目から	桁
フィールド1	データ区分	1	桁目から 1 桁
フィールド2	照合元バーコード	1	桁目から 66 桁
フィールド3	照合先1バーコード	1	桁目から 13 桁
フィールド4	照合先2バーコード	1	桁目から 13 桁
フィールド5	照合先3バーコード	1	桁目から 13 桁
フィールド6	照合先4バーコード	1	桁目から 13 桁
フィールド7	照合先5バーコード	1	桁目から 13 桁

送信データレイアウト

データ区分	照合元バーコード	照合先1バーコード	照合先2バーコード	照合先3バーコード
1	66	13	13	13

設定項目	説明
保存ファイル	保存するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字 1～8 文字>、<拡張子（大文字半角英数字 1～3 文字）> (拡張子に PD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMP を使用しないでください。)
保存フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大 16 フィールドまで設定します。
保存条件	照合OK, 照合NG, 照合OK/NG から選択します。 照合OK: 照合OKになった場合にデータを保存 照合NG: 照合NGになった場合にデータを保存（エラー表示した場合はデータ保存しません） 照合OK/NG: 照合OKと照合NGの場合にデータを保存
タイムスタンプ	なし, 日付, 時刻, 日付+時刻 から選択します。



■ 保存フィールド設定

フィールドデータとして、データ区分、データ区分マスター参照、照合元バーコード、照合元マスター参照、照合元データ、照合先バーコード、照合先データ、OK、NG、OK/NG、照合日付、照合時刻 から選択します。

フィールドデータ	説明
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
データ区分マスター参照	データ区分において「文字列表示マスターファイル」を使用した場合に設定できます。
照合元バーコード	照合元において読み取ったバーコードデータ
照合元マスター参照	バーコード照合モードにおいて「文字列表示マスターファイル」を使用した場合に設定できます。
照合データ 1～5	部分照合モードにおいて、照合元のバーコード読取設定で設定した照合データ 部分照合モードの場合に設定できます。
照合先バーコード 1～5	照合先 1～5 において読み取ったバーコードデータ
照合先データ 1～5	部分照合モードにおいて、照合先のバーコード読取設定で設定した照合先データ 部分照合モードの場合に設定できます。
OK	“OK”
NG	“NG”
OK/NG	“OK” or “NG”
照合日付	タイムスタンプで「日付」または「日付+時刻」を選択した場合に設定できます。 YYYY/MM/DD（10桁）を保存します。
照合時刻	タイムスタンプで「時刻」または「日付+時刻」を選択した場合に設定できます。 HH:MM;SS（8桁）

データ区分、データ区分マスター参照、照合元バーコード、照合元マスター参照、照合元データ、照合先バーコード、照合先データの場合、保存するデータを先頭位置と桁数（保存桁数）で設定します。

フィールド1 データ区分 ▼ 1 桁目から 16 桁

上記の場合、データ区分の1桁目から16桁のデータを保存します。

「9999桁目から16桁」と設定した場合は、「末尾から16桁」のデータを保存します。



■ 送信データレイアウト

設定に対応した送信データレイアウト（各フィールドの桁数）を表示します。

送信データレイアウト

データ区分	照合元バーコード	照合先バーコード	OK/NG	照合日付	照合時刻
16	13	13	2	10	8

< ||| >

5 設定更新

「更新」をクリックすると設定データを更新します。設定は業務設定データに保存します。

ここをクリック

照合サンプル 照合プログラム設定(BHT-800)

☒ 照合結果を保存する
 保存ファイル 保存フィールド数
 保存条件 タイムスタンプ

フィールド	項目名	桁数	桁目から	桁
フィールド1	データ区分	1	桁目から	1 桁
フィールド2	照合元バーコード	1	桁目から	66 桁
フィールド3	照合先1バーコード	1	桁目から	13 桁
フィールド4	照合先2バーコード	1	桁目から	13 桁
フィールド5	照合先3バーコード	1	桁目から	13 桁
フィールド6	照合先4バーコード	1	桁目から	13 桁
フィールド7	照合先5バーコード	1	桁目から	13 桁

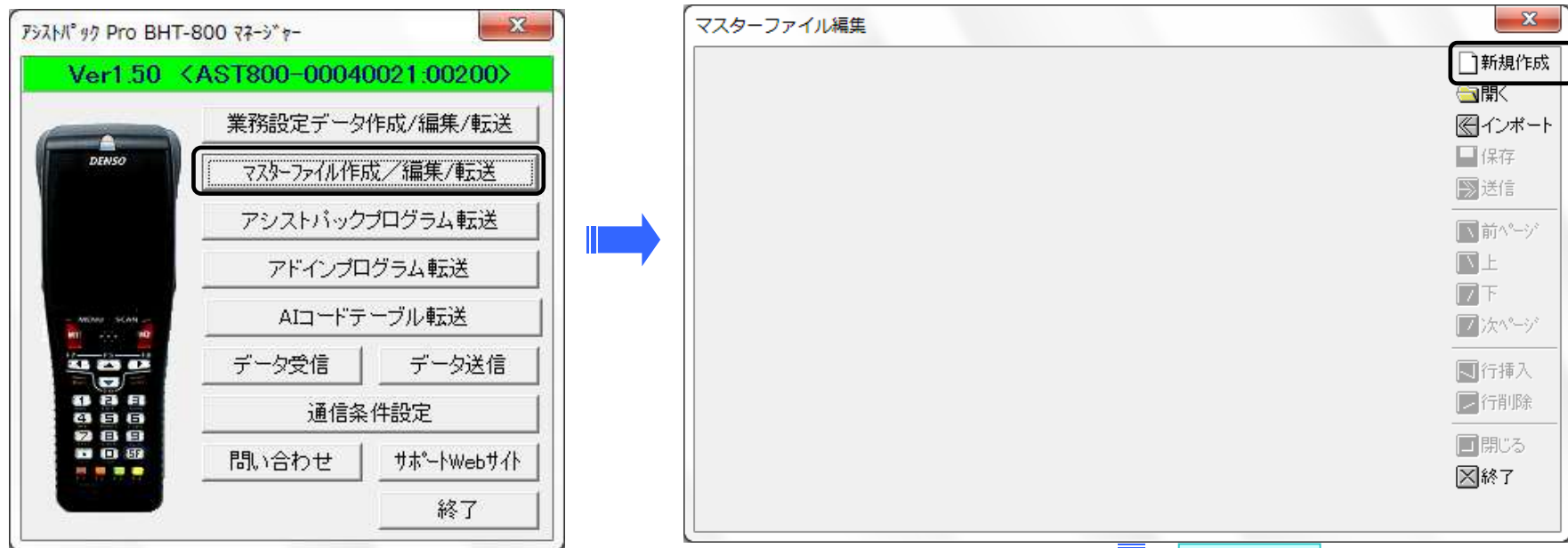
送信データレイアウト

データ区分	照合元バーコード	照合先1バーコード	照合先2バーコード	照合先3バーコード
1	66	13	13	13

< ||| >

6 マスターファイル作成／送信

[マスターファイル作成/編集/転送] ボタンをクリックします。



新規作成

検索キー桁数	13	桁
参照データ数	2	
参照データ1桁数	20	桁
参照データ2桁数	6	桁

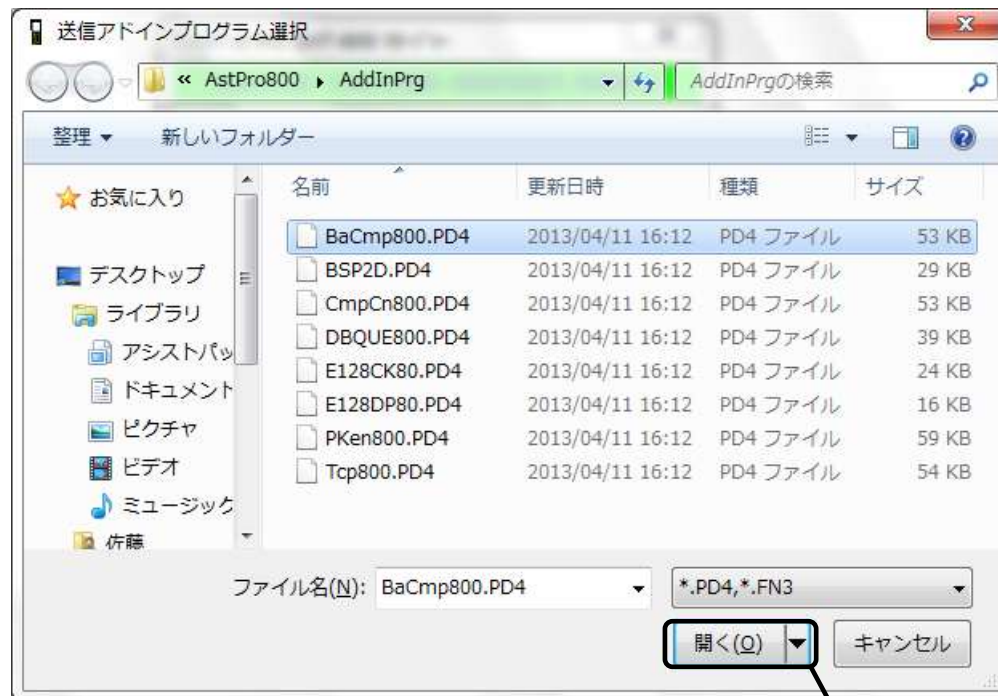
参照データ数を1にして、フィールド情報で設定した検索キー桁数と参照データ桁数を設定します。

確定

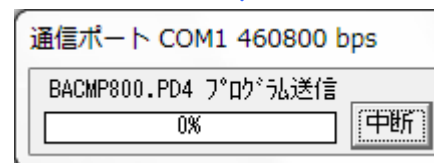
7 ハンディターミナルプログラム

7-1 アドイン照合プログラムダウンロード

アドイン照合プログラム「BACMP800.PD4」をBHT-800にダウンロードします。



BaCmp800.PD4 を
選択してクリック



サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

M1 戻る **M2** 実行

M2 実行



ファイル受信
通信ポート選択

1. CU-RS232 (115.2K)
- 2. CU-USB (460.8K)**
3. Bluetooth
4. #####.PD4
5. \$\$\$\$\$\$.PD4

M1 戻る **M2** 選択

M2 選択



ファイル受信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB



通信ユニット
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

BACMP800.PD4 送信中

54%

中断



プログラム転送

正常終了

OK

7-2 業務設更新

アドイン照合を設定した業務設定をBHT-800に送信して更新します。

☐ 新規作成
 ☐ 開く
 ☐ 保存
 ☐ 送信データ一覧表示
 ☒ **業務設定送信**
☐ 業務設定受信
 ☐ 閉じる
 ☐ 終了

☒ 業務設定送信

ここをクリックする



通信ポート COM1 460800 bps

業務設定 送信

0%

中断



サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
- 5. 業務設定受信**
6. 業務設定送信
7. バーコード 読取テスト
8. 全データ消去
9. ファイル受信
10. リモート受信

M1 戻る **M2** 実行

M2 実行



業務設定受信

通信ポート選択

1. CU-RS232 (115.2K)
- 2. CU-USB (460.8K)**
3. Bluetooth

M1 戻る **M2** 選択

M2 選択



業務設定送信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB



通信ユニット
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

業務設定 送信中

50%

中断



業務設定データ...

正常終了

OK

7-3 アドイン照合プログラム実行

業務メニュー

- 1. バーコード照合**

F1 Ver **F2** サブメニュー **M2** 実行

M2 実行



バーコード照合

データ区分

.....

M1 終了 **M2** 確定

データ区分を設定した
場合にのみ表示します。



照合画面



7-4 1対1照合 ~ 1対5照合

バーコード照合

照合元

■

M1 戻る

マスターバーコード
読取



M1 戻る

データ区分を設定しない場合は「終了」を表示します。

照合元入力： キーとバーコードの入力可能です。
キー入力の最大桁数はバーコード読取最大桁数です。
バーコード読取最大桁数が160を超えた場合は、
160が最大入力桁数になります。
照合先入力： バーコード入力のみ。

バーコード照合

照合元 4912345678901

照合先

1 / 1

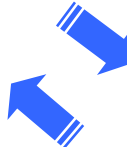
M1 戻る

照合OK



次の照合
バーコード読取

照合NG



バーコード照合

OK

M1 戻る

照合終了すると
次のマスターバーコード
読取画面へ



データ保存で
保存条件が
照合OK、照合
OK・NGの場合に
データを保存し
ます。

バーコード照合

NG

M1 戻る

データ保存で
保存条件が
照合NG、照合
OK・NGの場合に
データを保存し
ます。

7-5 照合 1対N照合

バーコード照合

照合元

.....

M1 戻る

マスターバーコード
読取



M1 戻る

バーコード照合

照合元

4912345678901

照合先

照合数 99999

M1 戻る

照合OK



次の照合

照合NG



バーコード照合

OK

照合数 99999

M1 戻る

データ保存で
保存条件が
照合 OK, 照合
OK・NG の場合に
データを保存
します。

照合元バーコードを読み取ると、照合数を0にします。

照合元入力： キーとバーコードの入力可能です。
キー入力の最大桁数はバーコード読取最大桁数です。
バーコード読取最大桁数が160を超えた場合は、
160が最大入力桁数になります。
照合先入力： バーコード入力のみ。

バーコード照合

NG

M1 戻る

データ保存で
保存条件が
照合 NG, 照合
OK・NG の場合に
データを保存
します。

7-6 入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

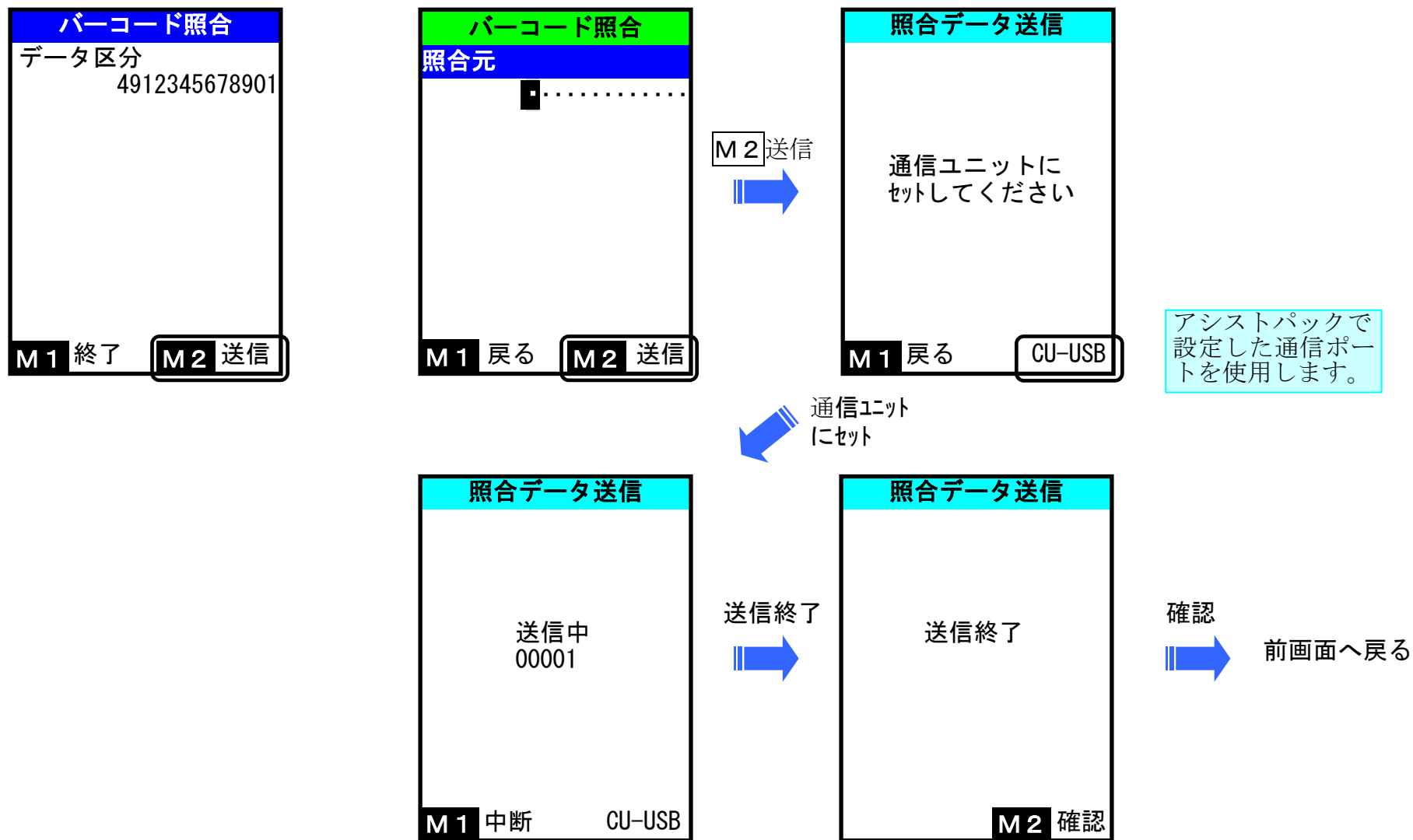
エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した場合
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードに CODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合（例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合）
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラーになったの場合
バーコードデータエラー	バーコードデータエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない場合
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない場合
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない場合
照合データ未登録	照合データ未登録	マスター照合において、読み取った照合元バーコードが照合マスターファイルに登録されていない場合
処理エラー	処理エラー	上記以外のエラー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。



7-7 照合データ送信

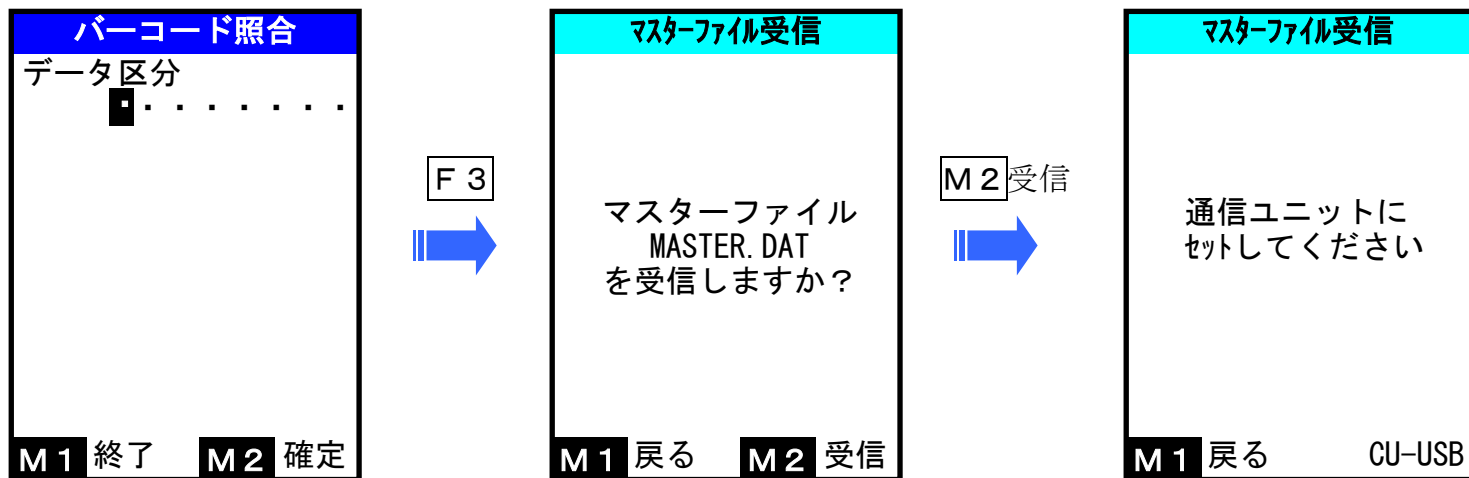
データ保存が設定されている場合、照合処理が終了すると、「データ区分入力画面」，「照合元バーコード読み取り」画面」の右下に **M2** 送信 を表示します。



7-8 マスターファイルダウンロード

データ区分の文字列表示マスターファイル、バーコード照合の文字列表示マスターファイル、マスター照合の照合マスターファイルの3種類のマスターファイルがあります。

● データ区分の文字列表示マスターファイル



● バーコード照合の文字列表示マスターファイル／マスター照合の照合マスターファイル

